

# 「総ぐるみ」新聞

NPO 総ぐるみ福祉の会事務所は日限山 4・44・23 (八四四一七四七七)  
 入会や活動のお問い合わせ先は、事務所または「日限山荘」日限山 4・7・1

## 十慈堂病院、佐久院長を囲んでお話を開催

昨年の一月に開催した第一回医療講演会において、「認知症のお話」をしてくださった佐久先生を囲んで、先般七月十四日に、十慈堂病院の会議室にてお話会が開かれ、十三名の方が出席されました。その紹介です。

### ●小学校三年の頃に医者を目指す

佐久先生は、昭和二十年に世田谷の中里小学校に入学。当時は学校給食もなく、弁当持参の登校でした。米が配給制で食糧難だった当時、弁当を持参できない子供が数名いました。昼休みになると、その子らは校庭で遊び、弁当を食べ終えた子らもその遊びに加わり、ごく自然に付き合っていました。弁当持参組が欠食の子らに食事を分け与えることは、ピュアな友人関係が崩れるためになかったのです。上野駅には、戦災孤児達が浮浪児となって生活していた時代でした。

小学三年の頃、この世に生きていて良いのかどうかと悩み、一週間学校を休んで考えた末、将来医者になろうと決意しました。

### ●成績がよくても進学しない友人

中学校は、越境して神田の中学に通いましたが、学期内に二回あるテストの成績を

全員張り出すような学校で、成績が百番以内なら、都立日比谷高校から東大へ進学できるといわれていました。

ある友人は、常に一〇番以内という良い成績で、一生懸命勉強していたので、当然東大へ行くものと思っていたら、中学卒業後は進学しないで、親の商売を継ぐために丁稚奉公に行くというのです。そして、勉強出来るのは今だけだから、しっかりと勉強するのだと言うのを聞いて、驚きました。

### ●東邦医大に合格

大学受験の時、父親に医者になることを告げると、周囲に医者親戚もないという理由で反対され、断念しかけた時、父の主治医に呼ばれ、子供の頃からの夢を簡単にあきらめてはいけなさと諭されました。

一年目は不合格でしたが、二度目の受験で東邦医科大学の



一次学科試験に合格。二次試験の面接で「現在の医療制度は間違っている」と批判したのに、入学できました。卒業後も大病院に残り、早朝出勤して看護婦に注射のコツを教わったり、脊髄注射を進んでやったりして努力し、三カ月で体重が六kg減った時期もありました。

### ●十慈堂病院の開業

十二年間東邦医大にいた後、初心に帰りたいと、大病院を辞めて開業を決心しました。銀行に借金を申込み、父親に連帯保証人を依頼しましたが断られ、真の親かと疑いましたが、自分が警察に追われたらどうするかと尋ねたら、「お前をかばう」といつてくれたので安心。銀行からも、粘って無担保融資を引きだし、開業できました。

一般病院として開業した当初は、手術もこなし、救急患者も受け入れていました。しかし往診先で、全身の関節が固まった寝たきり老人、生活保護所帯で入院を断られた方、末期で気管切開した方などに遭遇するうちに、何でもありの病院にする以外ないと思い、老人を多く受け入れる病院となりました。

当時の厚生省は、65歳以上の入院患者および長期入院患者が65%以上の病院は特例指定病院にするとい

うことで、看護師を整理する病院が続出しました。当院では出来ませんでした。一年半くらい以内に経営は行きづまり、毎月、給料支払いの心配をしなければならなくなり、父に相談に行くと、「どうせ一代で築いた病院、つぶすんだな」と言われて、気持ちが悪くなりました。

今年で病院創立二十六年になりますが、夏・冬の賞与をもらったのは三回のみ、六カ月無給で働いたこともありました。

### ●今後の日本の医療・介護制度

六年前に弥生台に介護老人保健施設「よい台『仁』」を創設。厚生省は、長く入院すると入院管理費が減る制度をつくり、経営の為三カ月で転院させる病院が多いのですが、当院はそのようなことはありません。

二〇一二年に、介護療養型病床を全廃する法令が可決されました。現在入院中の患者を全部家庭に返すことなど、出来るはずがありません。人間は「健康で長生き」し、最後は、家族に見守られて安らかに逝きたい」というのが究極の願いです。この願いを実現することこそ国の役割のほうです。

介護保険の改定で、介護認定を受けても給付金のすべてを使い切ることが難しくなっている現状があります。介護給付費は、プリペイドカード方式にして、使いやすくするべきだというのが、私の持論です。

また、国は医療費抑制のために、地域のホームドクターによる大病院への患者振り分けや、今まで保険診療と医者裁量による自費診療は、別の日にしか出来なかった

のに、同時診療にして、アメリカ型の自費診療を主流にすることを考えています。日本の医療保険制度のすばらしさは、全国どこでも均一な料金と質の医療が受けられることです。

将来を考えると、日本の医療・介護制度は暗いものです。また、日本も訴訟世界になりつつあり、終末期医療などは、医者にとつてとても難しいものになってきています。産科、小児科医の不足なども、このあ

## 施設見学会、介護老人保健施設「ヒューマンライフケア横浜」

去る七月七日の午後、戸塚区の原宿交差点に近い、表記施設を見学した報告です。

### ●介護老人保健施設とは

病院で入院治療が終っても、自宅に戻るには機能回復訓練や日常生活訓練が必要な方を対象にして、「入所サービス」「短期入所療養介護」「通所リハビリテーション」を行うところが、介護老人保健施設です。

利用できるのは、入所が介護保険認定の要介護一〜五の人、短期入所と通所は、介護保険認定が要支援〜要介護五の人です。

### ●施設内のサービスの種類

〔入浴サービス〕：身体の不自由度によって、快適な入浴が出来るよう工夫。

〔医療サービス〕：治療は行われませんが、常勤医師によって、健康チェックが行われ、緊急時には協力病院（戸塚共立第一、第二病院、西横浜国際総合病院、歯科佐藤）とたりに起因していると思われれます。

検査データ重視の現在医療は、患者の顔を見ない診療がまかり通るし、必要がないのに患者が希望する検査を行い、薬を多く出すほうが「よい医者」といわれます。なりたくて医者になった人ばかりではなく、偏差値がよいために、医者になった人も多いのです。

しかし、医療も福祉も、医者、患者・家族が、それぞれの持ち分を、皆で一生懸命行う必要がある分野といえると思います。

の連携をはかる体制あり。

〔リハビリテーション〕：理学療養士、作業療養士、言語療養士が日常生活の自立を目標としてお手伝い。

〔食事サービス〕：栄養士が、治療食やバランスの良い食事を提供。

〔その他〕：看護・介護サービス、総合相談、レクリエーション等が行われています。

### ●感想

見学して、まず車椅子姿のあまりにも多いことに当惑した。どうやら、転倒を恐れるあまりの処置らしい。また、リハビリの施設は、量・質ともに粗末と感じた。

NPO 総ぐるみ福祉の会

創立五周年記念イベント

十月二十七日（土）午後二〜四時

上山高史氏ジャズコンサート

場所：西洗・港南プラザ自治会館

前売り入場券 一〇〇〇円（飲み物付）